

3.7 情報通信セキュリティ研究センター

研究センター長 篠田陽一

研究センター概要

インターネットに代表される情報通信ネットワークは、我々の重要な生活インフラの一つとなり、国民の生活においてその利便性は大いに享受されているが、それと同時に様々なセキュリティ上の問題がクローズアップされている。

情報通信セキュリティ研究センターは、このような問題に対応していくため、「安心・安全のためのICT」研究領域において、情報通信の、そして情報通信による安心・安全な生活をリードする研究開発拠点を形成すべく平成18年4月に設置された。

当センターでは、ネットワークにおいて大きな脅威となっているサイバー攻撃・不正通信等への対策技術や、その発信元を追跡するトレースバック技術、そして情報を守るための暗号・認証技術や情報漏えい対策技術を組み合わせることで、トラクタブルなネットワークの実現を目指すとともに、災害時などのいざという時に生命や財産を救うためにも利用できるICTによる防災・減災基盤技術の開発も推進している。

このような活動の下、コミュニケーションの安心・安全をリードする研究開発拠点（COE）として、国民が常に安心・安全なコミュニケーションを享受できる環境の実現に向け、最先端の情報セキュリティ研究基盤、人材などを幅広く結集し、技術基盤を形成する研究センターを目指している。

さらに、産業界や政府の取組、大学・企業・研究機関等の研究活動や人材と積極的に連携しながら、情報通信セキュリティに関する先端的かつ実践的な研究を行うことにより、社会への迅速な還元を目指している。

当センターにおける研究開発課題は以下のとおりである。

- (1) サイバー攻撃等に対する検出・分析・対策等を行うネットワークセキュリティ技術の研究開発（インシデント対策グループ、トレーサブルネットワークグループ）
- (2) 情報・プライバシー保護のための暗号・認証技術等の研究開発（セキュリティ基盤グループ）
- (3) 災害による被害の防止・軽減を目指した情報通信技術の研究開発（防災・減災基盤技術グループ）

主な記事

- (1) 情報セキュリティ政策会議において定められた2月2日の「情報セキュリティの日」の関連行事として、NICT情報通信セキュリティシンポジウム「今後の情報セキュリティを読む」を開催した（図1）。
- (2) アジア最大級のネットワークコンピューティングイベントである「Interop Tokyo2008」をはじめとする展示会等に積極的に出展し、研究成果をPRした（17件）。



図1 NICT情報通信セキュリティシンポジウム
「今後の情報セキュリティを読む」（平成21年2月26日）

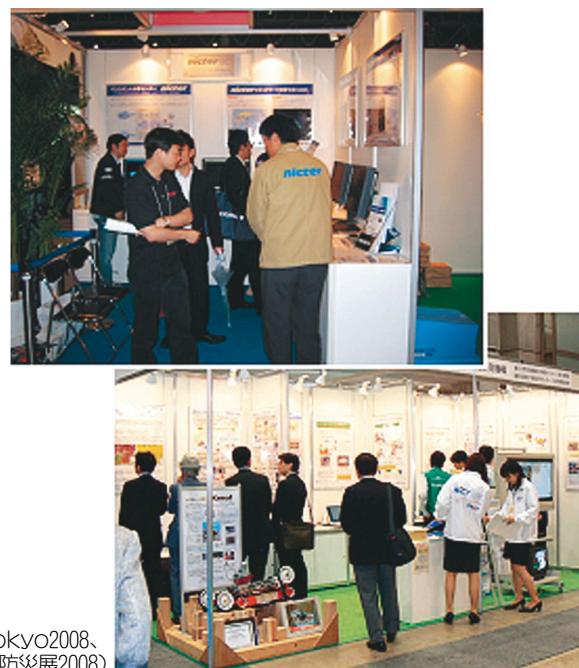


図2 展示会出展の様子
（右上：Interop Tokyo2008、
右下：東京国際消防防災展2008）